

深呼吸

排泄学のすすめ

秋田県は高齢化の点では世界の最先端と言っても過言ではなく、高齢者介護・医療には皆多少なりとも不安をもっている。高齢者医療・介護の問題点については本誌でも真木先生からシリーズで御寄稿頂いている。日常介護業務での注意点は勿論のこと、背後の問題にも鋭い視線が向けられており、いつも興味深く拝読している。患者さんの生活の質や支援への配慮が足りなくないか。介護業務、支援業務は自分のテリトリーから外れていると思っていないか。などと記事を読みながら自問している。医師としては医療行為の華とも言える診断と治療に関心が向くのは自然なこと。しかし、疾患という視点を少し拡げて、老化、機能障害、機能支援、リハビリテーション、感染防御、予防医学、看取りというような視野を持った活動が医師にももっとたくさん求められているのではないか。感染の問題も重要、看取りも重要。すぐ出来ること、根気よく取り組むべきこと、色々あるが、真木先生が採り上げられた問題の中で私がこだわるのは、実は「排泄」である。医者仲間ではこの問題に積極的に関わろうという人は殆どいないが、いずれ身内や自分にも起こること。避けては通れない。高齢者の社会参加や自尊心に影響を及ぼ

し、介護者にも負担となる排泄障害。オムツ代もばかにならない。深刻なことである。動物は、突き詰めれば消化管に手足がついて、ついでに頭がついているようなもの。口から入れて後から出すのに手足や頭を使っているのである。グルメにばかり金を使い、もう一方はあまりに迫害されている。排泄ケアの本も出版され(排泄学ことはじめ、医学書院)、介護器具も色々出ている(らくらく排泄ケア、メディカ出版)。また、人工肛門を持った方や身体の不自由な方の利用できるトイレの情報もネットで検索できる(あきたバリアフリーTOWN、<http://www.akita-bf-town.net/index.html>)。でも、この領域、医者影が薄いのだ。もっと排便障害に対して医者が何かできないか。快適で楽なトイレの普及や、トイレが整備された施設のガイドマップ作りなどに参加できないか。などと日頃排便障害の診療に携わる立場から考えている。

先日、飲み過ぎてウコン入りの飴をなめていると、私を排便オタクと信ずる某女医さん曰く、「先生も好きねえ。飴まで〇ン〇なんだから!」。私のせいで誤解された飴も悲しかろう。でも、やはりやらねば。皆様どうか、お力添えを。

(萱場 広之)

発行所 / 秋田県医師会
〒010-0874 秋田市千秋久保田町6番6号
電話018(833)7401番

発行人 / 寺田 俊夫

購読料 / 年6,000円送料共 1部450円(送料共)
本会会員の購読料は会費に含まれています。

印刷所 / 有限会社 佐々木印刷